

第1章 プラン策定に当たって

第1章 プラン策定に当たって

1 策定の趣旨

県では、平成22年度から4年間、本県の有する可能性を最大限に伸ばし、幅広い分野で秋田の元気を創り上げるため、県民一丸となって「ふるさと秋田元気創造プラン」を県政運営指針として、それに基づく施策・事業に全力で取り組んできました。

その間、加速する人口減少や少子高齢化、東日本大震災をはじめとする自然災害、欧州の信用不安、歴史的円高など、本県を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しました。

我が国全体としても、グローバル化の急速な進展と新興国の著しい経済成長、長期にわたる円高傾向の影響等により、国際社会における競争力が低下しているほか、今後、本格的な人口減少社会を迎えることから、国全体の活力の低下が懸念されています。

このような状況を打破するため、国においては安倍政権の経済政策として、いわゆる「アベノミクス」を打ち出し、景気回復、デフレ脱却など、経済の再生に向けた取組を進めており、その結果、円安・株高の効果等から景気は上向き傾向にあり、失業率や有効求人倍率も少しずつ改善しているなど、日本経済に明るい兆しが見えはじめてきました。

しかしながら、財政の健全化や社会保障制度改革、消費税率の引き上げ、アジア近隣諸国との緊張、TPP（環太平洋経済連携協定）への対応、東日本大震災からの復興、エネルギー確保など、いまだに、多くの課題を抱えている状況にあります。

こうした中、本県は全国でも特に人口減少や少子高齢化の進行が早く、労働力人口が減少していくと見込まれており、地域活力の低下や経済規模の縮小など、社会的・経済的影響が懸念されています。

日本全体が人口減少局面を迎える中、本県がその減少に歯止めをかけることは難しい状況にありますが、今後も秋田が持続的に発展していくためには、若者の県内定着や少子化対策、子育て支援策等の直接的な歯止め策に加え、産業経済活動の維持・成長や働く場の確保のほか、人口減少社会を踏まえた新たな社会システムの構築など、先駆的な取組を進める必要があります。

これまでの4年間、リーマンショック後の落ち込んだ本県経済の立て直しを図りながら、将来の成長を支える産業の育成をはじめ、新たな農業・農村政策の展開、社会資本の整備、医療・福祉の充実、少子高齢化対策など、本県が抱える基本問題に対応するとともに、将来の発展に向けた土台づくりを進めてきました。

今後は、これまでの取組の成果を生かしつつ新たな視点を織り込み、本県を取り巻く様々な課題を解決し成長軌道に乗れるよう、全力で各般の施策・事業を推進していくことが重要です。

このような考え方のもと、時代の潮流や社会経済情勢の変化等を踏まえながら、本県が抱える基本問題を克服するとともに元気な秋田を創り上げていくため、平成26年度からの新たな県政運営指針として、「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」(以下『プラン』という。)を策定します。

2 『プラン』のねらい

(1) ふるさと秋田の元気創造

「おおむね10年後」の「秋田の目指す将来の姿」を示し、その実現に向けた具体的な政策を「戦略」として設定し、戦略を支える施策群の計画的な推進を図ることにより「ふるさと秋田」の元気を創造していきます。

(2) 基本問題の克服

政策分野別に「6つの戦略」を設定し、重点的かつ効果的に施策・事業を展開し、歯止めのかからない人口減少と少子高齢化、厳しい経済雇用情勢など、本県の基本問題を克服します。

(3) 実効性のある『プラン』の推進

「ふるさと秋田元気創造プラン」に基づく取組の成果を土台としつつ、時代の潮流や社会経済情勢の変化を踏まえながら、県民ニーズを的確に反映した施策等を県と県民が一体となり、「チーム秋田」で展開することにより実効性ある『プラン』の推進を図ります。

3 推進期間

平成26年度から平成29年度までの「4年間」とします。

4 『プラン』の構成

第1章 プラン策定に当たって（2ページ）

- 【策定主旨】 時代の潮流や社会経済情勢の変化などを踏まえながら、本県が抱える基本問題を克服し、元気な秋田を創り上げていくため、現行の「ふるさと秋田元気創造プラン」を継承しつつ新たな視点を加え、平成26年度からの新たな県政運営指針として、「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」を策定する。
- 【推進期間】 平成26年度から平成29年度までの「4年間」

第2章 時代の潮流と秋田の可能性（7ページ）

| | | |
|---|--|---|
| <p>1 時代の潮流（8ページ～）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人口減少社会への突入 (2) グローバル化の進展 (3) 産業構造の変化 (4) 価値観の多様化 (5) 国際観光交流の拡大 (6) 食料の確保 (7) 東日本大震災後の社会意識の変化 | <p>2 秋田の可能性（13ページ～）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域産業 (2) 新エネルギー (3) 世界をリードする金属リサイクル産業 (4) 米・食文化 (5) 豊かで美しい自然 (6) 民俗・文化の継承 (7) アジアに開かれた地理的な位置 (8) 観光資源 (9) 秋田の魅力 | <p>3 県民意識とニーズ（18ページ～）</p> <p>【県民ニーズが高い項目（県民意識調査）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 若者等の就業支援や雇用環境の整備 ◇ 出産や子育てのしやすい環境の整備 ◇ 保健・医療サービスの充実 ◇ 暮らしやすい生活圏の機能維持 ◇ 県内へ移住・定住できる環境づくりなど |
|---|--|---|

第3章 秋田の現状と課題（19ページ）

| | |
|---|--|
| <p>1 これまでの取組（20ページ～）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 総論（状況） (2) おおむね順調な取組 (3) 依然として成果が十分に現れていない取組 (4) 政策評価の結果と今後の対応 | <p>2 現状と課題（22ページ～）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 人口減少と少子高齢化 (2) 産業構造と経済雇用情勢 (3) 県民生活の安全・安心と人材育成 |
|---|--|

課題を克服し元気な秋田の実現を目指して

第4章 秋田の目指す将来の姿（27ページ）

おおむね10年後の「秋田の目指す将来の姿」を見据え、3つの重要な視点を基本とし、『プラン』の推進期間である4年間で“3つの元気”の創造を目指す。

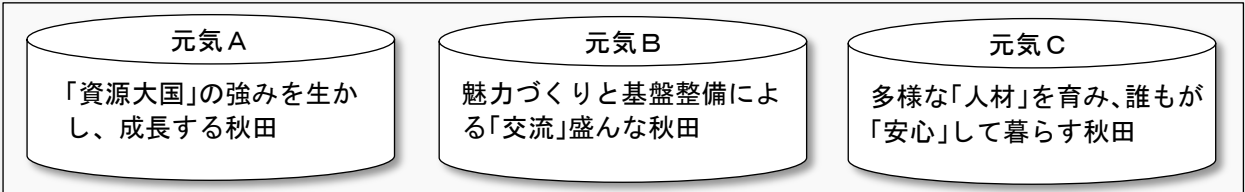
1 おおむね10年後の姿（28ページ～）

- (1) 「資源大国」秋田の成長
- (2) 秋田の飛躍に向けた基盤づくり
- (3) 秋田の未来を担う人材の育成
- (4) 誰もが安心して暮らせる地域づくり
- (5) 快適な生活環境の整備

2 3つの重要な視点（32ページ～）

- (1) 付加価値と生産性の向上による県外への売り込みの強化
- (2) 交流人口の拡大と県内流動の促進による県内消費の拡大
- (3) 人と地域の安全・安心の確保

3 4年間で創造する“3つの元気”（33ページ～）



元
気
創
造
に
向
け
た
具
体
的
な
取
組

第5章 重点戦略 (35 ページ～)

3つの元気創造を目指し、本県の先進性や優位性を最大限活用しながら、今後4年間で重点的に取り組む施策を次の「6つの戦略」として整理・体系化し、強力に推進する。

【戦略1】産業構造の転換に向けた産業・エネルギー戦略 (36 ページ～)

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| (1) 企業の経営基盤の強化と地域産業の振興 | (3) 「新エネルギー立県秋田」の創造と環境・リサイクル産業の拠点化 |
| (2) 秋田の成長を牽引する企業の育成と成長分野への新たな事業展開 | (4) 海外取引の拡大と産業拠点の形成 |
| | (5) 秋田の産業を支える人材の育成 |

【戦略2】国内外に打って出る攻めの農林水産戦略 (60 ページ～)

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| (1) “オール秋田”で取り組むブランド農業の拡大 | (5) 全国最大級の木材総合加工産地づくりの推進 |
| (2) 秋田米を中心とした水田フル活用の推進 | (6) 水産物のブランド確立と新たな水産ビジネスの展開 |
| (3) 付加価値と雇用を生み出す6次産業化の推進 | |
| (4) 地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成 | |

【戦略3】未来の交流を創り、支える観光・交通戦略 (91 ページ～)

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| (1) ビジネスとして継続・成長していく総合戦略産業としての観光の推進 | (4) 「スポーツ立県あきた」の推進 |
| (2) 秋田の食の魅力の磨き上げと県外への販路拡大 | (5) 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進 |
| (3) 秋田の文化力の更なる向上による地域の元気創出 | (6) 交通ネットワークの利便性向上と地域交通の確保 |

【戦略4】元気な長寿社会を実現する健康・医療・福祉戦略 (122 ページ～)

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| (1) 元気で長生きできる健康づくりの推進 | (3) 高齢者や障害者等を地域で支える体制づくり |
| (2) いのちと健康を守る医療提供体制の充実強化 | (4) 民・学・官一体となった総合的な自殺予防対策の推進 |

【戦略5】未来を担う教育・人づくり戦略 (143 ページ～)

- | | |
|----------------------------|------------------------------------|
| (1) 自らの未来を切り開き社会に貢献する人材の育成 | (5) 生涯学習を行動に結び付ける環境と芸術・文化に親しむ機会づくり |
| (2) 確かな学力の定着と独創性や表現力の育成 | (6) 高等教育の充実と地域貢献の促進 |
| (3) 豊かな心と健やかな体の育成 | (7) グローバル社会で活躍できる人材の育成 |
| (4) 良好で魅力ある学びの場づくり | |

【戦略6】人口減少社会における地域力創造戦略 (170 ページ～)

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| (1) 秋田への定着、移住・定住の拡大 | (5) 人口減少社会を踏まえた地域コミュニティの活性化 |
| (2) 官民一体となった少子化対策の推進 | (7) 「協働」の多様な担い手の確保と活動の促進 |
| (3) 次の親世代に対する支援の充実強化 | (8) 県と市町村の協働の推進 |
| (4) 子どもを産み・育てる環境の充実強化 | |
| (5) 地域の人材や資源を生かした地域力の向上 | |

第6章 基本政策^(※) (199 ページ～)

県民の基礎的な生活環境の整備を進めるため、継続的に取り組む基本的な政策について、次の「5つの分野」に整理・体系化し、着実に推進する。

※基本政策とは、上記「6つの戦略」のほか、県政運営上重要となる基本的な政策分野。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| (1) 県土の保全と防災力強化 | (4) 安全で安心な生活環境の確保 |
| (2) 県民総参加による環境保全対策の推進 | (5) ICTの活用と科学技術の振興 |
| (3) 若者の育成支援と男女共同参画の推進 | |

第7章 『プラン』の推進に向けて (215 ページ～)

『プラン』を適切に推進し、実効性を確保するため、次の取組を県政運営の基本姿勢とする。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| (1) 多様な主体との連携 | (4) 新行財政改革大綱(第2期)の推進 |
| (2) 市町村との役割分担と協働 | (5) 政策評価システム等による進行管理 |
| (3) 地域資源や潜在力の発掘と活用 | (6) 『プラン』と『個別計画』の一体的な推進 |

